

Title	石原医学士著 女工之現況
Sub Title	
Author	阿部, 秀助
Publisher	三田学会
Publication year	1914
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.8, No.5 (1914. 6) ,p.621(115)-
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	批評と紹介
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19140601-0115

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

のにして、其内容豊富、殊に露國に關する部分に本著の特色として認む可きもの多し、而して本著は紙數の約三分の二を國民經濟に、三分の一を財政學に費し、卷頭先づ吾人の經濟行爲の基礎を以て吾人の生存上の慾望に基くとなし、次で個人、家族等に關する私經濟組織と共同經濟が進んで國民經濟及世界經濟となる所以を明かにし、就中、國民經濟の階段を敘述せる際、商工業の見る可きものなき農業的國家の狀態にある露國の發展を明かにせり、又、生産篇に於て露國の現状を論せり、即ち露國本土に於ける土地の五分の一は何等價值なき部分にして、炭田と鑛山とは共に地理上極めて不適當なる地位にあり、何んとなれば此兩者は露國に於ける主要なる工業地たる「モスカウ」及「ウラヂミル」兩州を去ること遠く、「ペテルスブルグ」と「リガ」の工場は止むなく外國炭を輸入せり、又、「ウラル」の豊富なる鑛山は其附近に炭田を有せざる

結果、採鑛上、木炭を使用せり、更に進んで、伯は勞力と人口問題とを罔聯して説明し、其間生産的職業に全人口の約五分の四を有する佛蘭西及普魯西の如き國家を稱揚せり、尙ほ人口移動の現象を説明せる中に、露國の生産率の多きことを論せり、即ち西部歐洲の諸國中、生産率にて最も多きは獨逸及奧太利の三十二人乃至三十六人(人口千人に就き)にして、露國は之れに對して、四十四人半以上の數を現せり、となせり、尙ほ伯は内國産業の極端なる保護論者にして、之れを證明する爲め、彼は歴山三世の工業及商業政策が著しく露國の産業を發達せしめしことを以てせり、而して工業の發達につれて當然發生する勞働者問題に就きては、彼は熱心に國家の保護干渉を主張せり、次ぎに貨幣、銀行及信用制度に關しては國民經濟篇の約四分の一以上に亙り、極めて透徹的に説明し、其間、露國有數の財政通たる伯の面目を躍如たらしめたる

り、尙ほ國民經濟篇最後の部分に於て所得問題を經濟上殊に社會政策上より論究し、轉じて財政篇にては財政組織、豫算、其歴史等を説明し、殊に國家收入の部に於て露國に於ける諸税及手数料等を最も明白に説明し、更に市町村自治體の組織及其財政狀態を敘述するによりて、本著を終れり、我等は實に本書によりて露國を近世化したる伯「ウイッテ」の精力と達見とを窺ふを得可し。(阿部生)

石原醫學士著「女工之現況」

國家醫學會發行

著書が我邦に於ける各工場的女工を精査研究せし結果によれば、未成年女工は女工總員の六割強に當り、又、女工の勤續年月は比較的短く、二箇年以上勤續せるものは僅かに總員の三割位にして、次ぎに工場在籍中の死亡率は一千人に對し八人内外、而して其過半数は結核性なり、

加ふるに疾病未治なる故を以て解雇されたるもの、過半も同病患者なりとす、而して著書が得たる結論にして、最も重要な點は(一)本邦婦女子にして工業に従事せし者は従事せざるものに比し、多數の死亡者を發生し、併せて結核性疾患及脚氣の割合増進せるは疑ふ可からざる事實なること(二)本邦工業の經營狀態は従業者の健康を一般に比し劣悪ならしめつゝある明瞭なる事實ある事なりとす、想ふに此著は衛生上の見地より見たるものなるも、我邦に於ける社會問題の研究に従事する士にとりては、其間幾多の參考材料となるもの少からざる可し。我等は著者の調査研究を多とするもの也。(阿部生)

高垣寅次郎著 銀行集中論

大正三年一月東京銀行集會所發行
菊版一九五頁 定價 金六十錢

本書は高垣氏が東京高等商業學校專攻部銀行科に提出したる卒業論文にして、同科擔任佐野博士が審査せられたるものなり。